



いつもご紹介ありがとうございます。

8 月 紹介数

内科	48	整形外科	37	腎・透析センター	1	歯科口腔外科	30
内科 ER	145	放射線科	68	内視鏡	30	消化器内科	27
外科	49	脳神経外科	5	呼吸器外科	4	眼科	2
泌尿器科	19	小児科	25	胸部心臓血管外科	3	乳腺外科	8
産婦人科	103	緩和ケア外科	44	循環器内科	40		
皮膚科	0	精神科	2	リハビリ科	1	合計	691

## 腫瘍内科 中江史朗部長医師挨拶

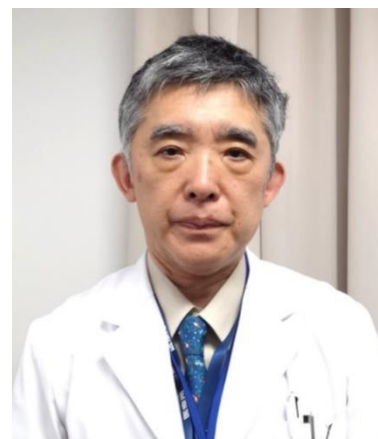


腫瘍内科の中江史朗です。

消化器癌の抗癌剤治療を担当しています。

抗癌剤治療に関して重要なのは副作用のコントロールです。

患者さんの最もつらい副作用の一つとして嘔気、嘔吐がありますが、最近では効果の高い制吐剤がガイドラインで推奨され、以前は精神科の薬であったオランザピンの導入もされてきています。抗癌剤による肝障害にはウルソデオキシコール酸やグリチロンを併用します。これらの西洋薬で対応できればよいのですが、中には西洋薬では御し難い副作用も多々あります。



私が独自に行っている対策は漢方薬です。有名なのはイリノテカンという抗癌剤の副作用の下痢に対する半夏瀉心湯とパクリタキセルの痺れに対する牛車腎気丸があります。これ以外に食欲不振に対する六君子湯、血小板減少に対する加味帰脾湯、味覚障害に対する香蘇散、T S I の流涙に対する香蘇散と小柴胡湯の併用、ウルソデオキシコール散やグリチロンでも対応できないビリルビン上昇時の茵陳蒿湯、肝障害時の茵陳五苓散等、最近では大腸癌のアービタックスという分子標的薬の副作用の爪囲炎に対して温清飲と紫雲膏を併用することでアービタックスを継続しながら爪囲炎の軽減を得ております。これらの対策で副作用の忍容性が高まると抗癌剤治療の継続が可能になってくるケースが出てきます。

漢方薬は穏やかな薬というイメージがありますが、副作用もあります。甘草という生薬を含む漢方薬による低カリウム血症は有名で、グリチロンを併用しているケースでは特に注意が必要です。また漢方薬による肝障害や間質性肺炎も対応が遅くなると重篤になるケースがあります。

これらに注意しつつ日々診療を続けさせて頂いております。

## ■ 第 26 回地域連携をすすめる会開催のお知らせ ■

開業医の先生方、地域医療機関の皆様との情報交換をさせていただく大切な機会として地域連携を進める会を開催いたします。昨年に引き続き、COVID-19 の感染対策を講じ、講演会のみで開催いたします。当院の実績だけでなく地域の先生方のお役に立てる内容とし、地域医療連携がより円滑に行われる一助となればと存じます。

つきましてはご多忙中誠に恐縮ですが、是非ご出席賜りますようお願い申し上げます。ご出欠の可否をFAXにてご返信くださいますようお願い申し上げます。

■日時 2022年10月15日(土) 15:00 開始(受付開始 14:30)

■場所 耳原総合病院 『みみはらホール』 (耳原総合病院2階)

■講演会 15:00~16:00

### ■プログラム

「病院活動報告ーコロナ禍で見てきた課題と展望」 病院長 河原林正敏

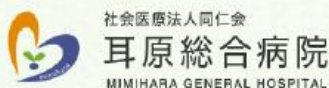
「当院の COVID-19 診療~第7派の経験を中心に~」

救急総合診療科センター長 副病院長 大矢亮

<診療科の特徴紹介>

※本学習会は大阪府医師会生涯研修申請中です。(1単位)生涯研修チケットをお持ち頂きますようお願い申し上げます。

※密を避ける為、参加者数を事前に把握させていただきます。  
申し込み状況によってはご参加いただけない場合がございます。  
ご了承下さい。参加申し込みいただいた方には、あらためてご連絡させていただきます。



# 地域連携室



直通 0120-198-338

TEL 072-241-0324(直)

FAX 072-241-0208(直)

平日 8:30~20:00 土 8:30~13:00 日祝休